

平成30年2月4日（日）に

第7回 佐鳴湖交流会を開催しました

佐鳴湖交流会は、佐鳴湖で活動する各団体の交流を図り、各団体の取組に係る情報発信の場や、佐鳴湖の現状や将来について自由に語り合う場を設けることで、市民活動の輪を広げるとともに、佐鳴湖への取組の機運を盛り上げ、市民自らの手で良好な水辺空間の形成を図ることを目的として開催しています。第7回は、講演会、発表会、ポスター発表、意見交換会を行いました。

講演会

堀留運河と佐鳴湖周辺の水運

浜松市中央図書館業務アドバイザー 鈴木 正之氏

【講演要旨】 浜松には国際貿易港がなく、浜松流通業務センターが完成するまでは、海へ出たいという多くの人たちの願いがありました。そして、それを長い間支えてきたのが堀留運河や佐鳴湖周辺の水運でした。堀留運河は、駿府藩の役人の井上延陵や田村弘蔵の尽力と、職を失って浜松に来た士族や地元の農民等の努力で完成しました。浜松と湖西市新所の間を、和船で物資や人を運び、明治9年には小型蒸気船が運行するなど、「浜松の西の玄関」として大変賑わいました。しかし、鉄道開通やトラックによる輸送が発達すると利用されなくなりました。浜名湖との高低差がほとんどないため、現在は洪水や水質の悪化が課題となっています。



佐鳴湖は、古くから浜名湖と交通の便がありましたが、江戸時代に新居関所が関所破りを嚴重に監視したため、残念ながら水運は停滞しました。

発表会

4団体が、研究・調査成果の発表や、活動内容の発表を行いました。

1

佐鳴湖の水神様 九頭龍権現



遠江文化財研究会
椎ノ木谷保全の会

成島恵美子氏

臨江寺の水神様は、九頭龍権現が祀られています。三方原台地から佐鳴湖へと通じる水脈は、古代から水神様を祀って大事にされてきました。この周辺の地域では、原人の足跡も発見されており、佐鳴湖は重要な場所であることがわかります。

2

ミシシippアカミミガメをとって食べる ～佐鳴湖での捕獲と有効活用の活動報告～



昆虫食倶楽部

小林芽里氏

佐鳴湖には外来種のアカミミガメがたくさんいますが、在来種のイシガメへの影響が懸念されます。このアカミミガメをとって食べたり、楽器にしたり、学校の解剖実習に使ったりという試行や調査を行いました。生き物は最後まで飼うことを呼び掛けています。

3

佐鳴湖でヤマトシジミを復活させるには



縄文楽校
鈴木信行氏

二枚貝のヤマトシジミは、よく汚濁物質を取り込んで、水を浄化します。条件が良ければ大量に育ちます。16年間実験を続けてきましたが、今年は竹籠で幼生の流出やヘドロの堆積、外敵の進入を防ぎ、実験を成功させたいと思います。

4

子供の遊びと大人



コドモランド
プロジェクト
チーム

子供の遊びに怪我はつきものですが、大人が全て管理するのではなく、大人が子供を見守りつつも、子供自身が状況を判断し、危険を回避することが必要だと思います。それぞれの役割の中で、どう動くかを考えることが大切です。

ポスター発表

12名が研究・調査成果、活動内容などをポスター展示し、自由に発表、意見交換を行いました。活発な交流が見られました。



意見交換会

「佐鳴湖を守る」「佐鳴湖を楽しむ」をテーマに自由に意見交換しました。



今年も小学生や高校生に発表していただき、多様な世代が交流する楽しい会となりました。終了後のアンケートでは、「佐鳴湖と人々の関わりが分かっておもしろかった。」「他の方の活動や、浜松のことについてより深く知ることが出来ました。昨年に引き続き行っている活動では、新たな進展が見られて良かったです。」「佐鳴湖を愛し活動している皆様の各種活動を知り、佐鳴湖に対する思いもより強くなりました。」といった感想をいただきました。